令和5年度 第4回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和6年2月28日（水）午前10時00分から午前11時40分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 17名

碧南市社会福祉協議会 杉浦 浩二（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

碧南市民生委員児童委員協議会 榊原 和弘

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 永田 吉則

愛知県衣浦東部保健所 西出 素子

碧南市小中学校校長会 杉浦 道文

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

サンフレア 高松 有美

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

ふれあい支援センター 浅野 将克

ARTIST JAPAN 森脇 友理

(2) 事務局

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主査 小田 祐子

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 齊木 鉄馬

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課長 大野 孝男

地域福祉課地域福祉係主査 古川 裕隆
地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司
地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳
地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美
地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘

4 傍聴者

なし

5 議題

- (1) へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について
- (2) 次期へきなん障害者ハーモニープランの計画案について
- (3) 各作業部会の取組状況について
- (4) その他

6 議事の要旨

- (1) あいさつ
- (2) 議題

ア へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

意見・質疑等なし

イ 次期へきなん障害者ハーモニープランの計画案について
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

委員：(67頁) 声の広報に関連し、(21頁) 文化芸術活動にて、図書館で響きという盲人向けの対面読書サービスをやっている。高齢化に伴い対象者が減っている。新規の対象者に対し、利用案内をしたいため、目の不自由な方を福祉課より教えてもらえないか。

事務局：個人情報の保護があるため、団体に情報を出すのは難しい。手帳交付の際にPRしているため、周知を引き続きしていきたい。

委員：手帳交付の際にPRというが、本人も手帳取得の際は混乱している。受け取る際に気づかないことも多い。福祉課窓口等に置いてあるだけでは浸透しない。志をもって活動をしているため、障害を持った人に直接的に分かるような方法を開いてほしい。

会長：努力していただくという要望ということで、お願いということにしまし

よう。

委員：(74頁)4の用語解説について、概要版にも関係する用語を解説してもらえるとありがたい。

事務局：すべてを載せることは難しいため、意図が伝わりにくい用語を抽出して載せていきたい。例えば、どのような用語を載せたほうがいいか。

委員：ペアレントトレーニング、ピアサポーター、ピアサポート、ペアレントプログラム、ペアレントメンター等の記載が欲しい。

会長：他にも、これを載せたほうが良いという意見があれば直接福祉課に報告をしてください。

委員：(15、55頁)精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築の実績値として、委員に当事者や家族等の参加は無い。見込量に1となっているため、当事者や家族の開拓を行う中で私も協力できることがあれば声をかけて欲しい。

事務局：ご配慮ありがとうございます。

会長：(43頁)新規の指針がある、就労選択支援という令和7年度から数値がある新しいサービスの内容はどのようなものか。

事務局：障害者本人が就労先についてより良い選択ができるよう就労アセスメントを活用し、就労先を見つけるもの。いきなり、就労継続支援A,B型事業所に通所するのではなく、アセスメントを行いった後に検討していくサービスであり、令和7年度より開始予定である。

会長：就労系の事業所は何か既に準備等を行っているか。

委員：特にまだ何も準備等については行っていない。

委員：同じく、特にまだ何も準備等については行っていない。

会長：現場は、まだ内容等についても周知されていないという状況のようであるため、行政も事業所と連携しながら進めてほしい。

会長：(49頁)相談支援の中で、地域定着支援、地域移行支援について、入院者訪問支援事業が令和6年度から始まると聞いているが、どのような内容か。

委員：精神病院に入院している者で、家族との関係が希薄で市町村長同意の者で希望する者に対し、市町村の職員が訪問するという事業。まだ詳細については決まっていない。

ウ 各作業部会の取組状況について

各作業部会の代表及び基幹相談支援センターが会議資料に基づき説明し、その後

審議した。

<主な意見・質疑>

委員：何年か前は身障センターの事務員が足の悪い身障者の送り迎えをしてくれていた。そのため、自分で運転できない人を送り迎えしてデイサービスに来ることができた。私が会長になって7年会員が激減している。事務の人が送り迎えするということは保険の関係でできないかと思い、代わりに障害者同士で送り迎えを行っている。あいくる、身障センターの事業に参加したいのに来れない方がいる。タクシー券も24枚で終わり。身障センターの車を用意して、送り迎えを行うように検討してくれないか。

会長：上記の意見については、障害者の外出について的手段であると思うが福祉課としてはどうか。

事務局：移動に関する問題については、様々な意見がでている。市としては、地域公共交通計画策定部会にて計画を策定中である。その中で高齢者、障害者の移動について盛り込んでいる。個別のデイサービス等に対する移動については、意見があったということで受け止めておきたい。

委員：また、障害者のスポーツ大会に参加する際に10人以上でないとバスを出してもらえない。身障協会に加入している人も少なく、なんとか応援者も含め10人揃った。10人揃わないとバスも出せないのか。それなら、小回りの利く車を出すなど考えて欲しい。

委員：地域生活支援部会の報告にあった、青木先生の講演会が開催されていることについて知らなかった。自立支援協議会のメンバーに講演会がある場合は周知して欲しい。みんなが同じレベルになるようにお願いしたい。また、他の資料などの提供が遅いため、早めにほしい。

基幹相談：青木先生の講演については、地域生活支援部会での事業であったため、部会メンバーに対して案内を行った。今後については、内容によっては広く周知したいと思う。

委員：先ほどの障害者の移動について、個別の案件という発言が引っかかっている。個別ではなく、車椅子利用者全体の問題として扱ってほしい。先日、社会福祉協議会にて福祉車両を借りた。福祉車両は、車のみ借りることになる。運転者がいなくて車椅子で移動したい人は少なくないはず。高齢者は外出支援で助けてもらっているため、障害者でも同じような支援がほしいため、全体的な問題として考えてほしい。

事務局：市の制度として、福祉有償運送がある。市内だとNPO法人が行っているため、そのような選択肢もあるということを報告としたい。

委員：事業者がすぐに無くなってしまいうため、そのことも考慮に入れてほしい。

エ その他

事務局より、3点説明。1点目としては、第2回自立支援協議会にて、日中支援型グループホームの評価を行ったが、人員不足により当初予定していた開所日での営業が難しく、令和6年5月1日以降での開所予定となった。2点目としては、マスコミなどで取り上げられてる、グループホームの食料費の過剰徴収問題について、当市としては県が主体となり障害福祉サービス事業所への実施指導を3年に1回の頻度で行っている。また、市が認可している地域生活支援事業の事業所についても、3年に1回の頻度で実地指導を行っている。最後に、会議資料に基づき、来年度の会議予定日を説明した。

7 まとめ

学識経験者（日本福祉大学 青木聖久 教授）より、総括として以下の4点の話があった。

まず1つ目は、『弾力的な社会資源への変化』。会議中にも、入院者訪問事業の質問があった。精神科病院は非日常であり、気軽に見学に行くことができない。専門機関の人のみが入れる空間であった。しかし、事業の開始により、ボランティアの人も入れるようになる。そのため、インフォーマルな社会資源の人も入ることもできることから、意味のある制度にしていきたい。また、障害者雇用について、20時間より短くても障害者雇用としてカウントできるようになる等といった、弾力的に社会資源は変化していく。ピアサポートも同じであり、実践が行政を動かしていく。

2つ目は、『地域移行における動機づけの後付け』。今回配布された、一人暮らしについての資料が素敵だと思った。ぜひQRコードも見てほしい。イメージがわからない、経験がないという点が動機づけになりにくい、動機は実際の経験が後付けになる。イメージの構成は動機づけになるのではと感じる。障害者の施設は従来、きれいな場所が少なかった。現在、きれいな施設が用意されるのは良いことだと思う。

3つ目は、『活動を通して障害がある人の理解をする』。

能登地震で避難所にいることができない知的障害者がいる。結局、金沢に移ることになる。何かの事象があると、問題が目に見えるようになり、様々な活動を通して障害者を理解することができる。

最後に、『自立支援協議会のさらなる活用』。今回、会議前に事務局に対し、グループホームの指導監査の状況について報告をお願いした。行政機関による監査はあんまり効

果がない。自立支援協議会は地域の問題を議論し、行政が届かない範囲に対応できる。
そのため、自立支援協議会で関心を持ち議論しながら進めていければと思う。 以上